



大山に夕日が沈む



白山

浮遊する白山

White Bird

2004. 3月 20-21 日

滑りに滑りまくった氷ノ山

天候 : : : 晴れ

今週末は土日とも快晴の予報・・・いつになく好条件が揃っている。
私は金曜日に娘の結婚式があり今週は今までにない大忙しの日々を送っていた。しかし土日は天気がいいのでこれを逃せば山を愛する者にとってとても後悔するのは目に見えている。またこの27日の土曜日は40才最後の誕生日なので是非ともいい思い出を作っておきたいと思うのは当然であろう。娘とのバージンロードでは込み上げてくるものがあり、思い出しつつも・・・明日に向けての山スキーモードに切り変わっていく。



霧氷が朝日を浴びて目覚める

- 種 目 : 山スキー
- 山 域 : 兵庫県
- 場 所 : 氷ノ山
- 日 時 : 3月 27-28 日 (土日)
- コ ー ス : 流れ尾根 ~ 山頂泊 ~ プン回し
- 天 候 : 快晴
- メンバー : 石野・大塚

うららかな陽光浴びて花見の季節を迎えるころ、風光明媚な世界を求めて氷ノ山へと足を踏み入れると、山頂は霧氷の華が咲き乱れ恵みの太陽によって舞い落ちる霧氷シャワーを浴びながら素晴らしい世界へといざなわれる。

27日 快晴 流れ尾根～山頂

滑降バーン>>>山頂より南斜面、ワサビ谷、1448ピークより東斜面、山頂より北壁、氷ノ山越小屋から不動滝源頭、赤倉山山頂から不動滝源頭、コシキ岩直下より不動滝源頭

7:35 0度 氷ノ山国際スキー場スタート

雪不足の為にクローズしているゲレンデをシールとクトーでサクサクと朝日を背に登りつめる。カリカリの斜面にクトーがよく食いついてくれる。

8:00 スキー場最上部、そのままシールでサクサクと流れ尾根に取り付き、ヤセ尾根でデブリが出てきた。

8:40 ザック固定でアイゼンを付けて急斜面を四つ足もどきでキックステップで登りつめる。

9:25 山頂直下の北壁のトラバース地点にたどりつくると極冷えでアイゼンがギシギシと食い込んで楽しませてくれる、そこはブナの枝々に昨夜の放射冷却で見事に霧氷の華を咲かせている。、トラバースしているときには、恵みの太陽が木々に話しかけて霧氷のシャワーを浴びせてくれている(昨日の娘のライスシャワーよりも素晴らしい) これほどの歓迎を受けて氷ノ山山頂へと導かれる。

9:47 千本杉上部では高校生ワングルが色とりどりのテントを張って合宿をしている。

9:55 小屋着。

それを横目に山頂小屋へ足を運ぶ。まだ誰も来ていない、早速に2階の寝床を確保して行動食を口にして、サブザックで滑降体勢に入る。目指すはワサビ谷である。

10:50 まずはお気に入りの山頂から南斜面のブナ林へロングライドで楽しみ、三の丸稜線へと登り返す。その頃には若桜スキー場から上がってきた登山者や山スキーヤー2人と出会ったりもするが、谷から上がってくる我々に「何処から来たの?」と



クローズゲレンデをシールで登行



四つん這い急登の担ぎ



霧氷シャワーを受けてトラバース



ブナ林へ滑降



コシキ岩直下を滑る

不思議顔。

11:37 いよいよ待望のネットでも販わっているワサビ谷滑降である、この谷は先々週に石野氏が下っているので予想は付いていたが、別にそれほど急斜面でもなくどうってこともない谷であった、こんな谷なら扇ノ山ではいくらでもあると実感したほどだ。沢水が見え始めてきた所で滑降終了、再び稜線へと登り返す。

12:20 次いで稜線上の1448mピークより東斜面へロングライド、この稜線で駒の尾小屋で出会った登山者とばったりと合った、また先程の山スキーヤー2人が早々と山頂から滑ってきてもう帰り支度ようだ・・・もったいないなあ、彼らを横目にピークの雪尻よりドロップイン。

13:10 程なくトラバースや滑降を繰り返しながらの登り返しは、春の日差しで紅潮したブナの一本一本が出迎えてくれているようで力が漲ってきてまた楽しいもので疲れがいやされる。山頂へシルでサクサクと登りつめると、大勢の登山者やスキーヤーで賑わっている。山頂からブン回し尾根を眺めながら小休止を決め込む。

13:40 この上天気のおかげで南や東斜面は緩んできたので、今度は山頂から北壁へ滑り込みコシキ岩をトラバースして氷ノ山越えまで一気に滑り込む。ここから東へ不動滝源頭においしい斜面が広がっているので迷わず突っ込む。ブッシュがうるさくなって来たところで赤倉山へと登り返す。

14:29 赤倉山頂から同じく不動滝源頭へ滑り込むが雪が重く快適とは言えなかった。足もだいぶ



わさび谷は言うほどでもなかった



赤倉をバックに北壁を登る



氷ノ山の夜明け



ヤセ尾根滑降

ん疲れてきたので、山頂へとシールで今日の寝床へ登りつめる。

15:25 コシキ岩直下へ来た時は思わず飛び込みたくなり再びシールを外してドロップイン。ここからの山頂小屋への道のりがつらかったこと、いつもならすぐに追いついてくる石野氏もパテているようでなかなか距離が詰まらなかった。

16:15 小屋の2階にはカメラマン2人が夕食支度をしていた。小屋からは今まで滑降オンリーだったので気づかなかったが、西に真っ白い大山がすぐ近くに見えるし、東の遠方には夕日に照らし出されて金色に輝き浮遊する白山が見える。こんなはっきりと見える光景は通い詰めている氷ノ山では初めてのことである。ただ滑るだけのスキーと違って、つらくてしんどい思いをしての滑降は充実感もひとしおで大満足である。そのあとの喉越しのピールはまた格別でカラッポの胃袋に流れ落ちるのはなんとも言えない極上のうま味がある。これぞ五臓六歩に染み渡るである。

21:00 満天の星空に抱かれた山小屋の中でいつしか熟睡モードに入っていた(-_-)° zzz...

28日 快晴 山頂~ブン回し

滑降バーン>>>赤倉山と布滝頭の間 1290m ピークより布滝源頭



朝日を受けて山頂小屋を後に

5:30 起床

東の空が明るくなりだすとすぐに氷ノ山の夜明けがやってくる。昨日よりは冷え込みがないものの天気は雲一つ無いドピーカンだ！。金色に輝く太陽によって山々にモーニングライトが送られると、真っ白い雪原に山々のシルエットが写し出されて一斉に目覚め始めている。これぞ風光明媚につきるというものだ。

7:42 山頂よりスタート

昨日の緩んだ雪がガリガリに凍てつきエッジで金属音を北壁に響かせながらコシキ岩



次回狙う尾根

をトラバース。

8:02 一気に氷ノ山越え小屋まで滑り込む。赤倉山をトラバースして担ぎ体勢に入りややこしいヤセ尾根を慎重に登り降り。

8:45 赤倉山と布滝頭の間の1290mピークに着く。ふもとの奈良尾村辺りから見ると素晴らしいバーンが正面に広がっていると前から狙っていたバーンである。しかし急斜面でよく雪尻雪崩が起きるので朝一しか無理と踏んでいた。早速にピークから奇声をだしカッ飛ぶ、やはり思った通り最高の斜面だったが締め具合は今ひとつであった(^_^;)。

9:53 大平頭小屋から氷ノ山を眺めていると山頂からは不動滝に落ちる2本の素晴らしい谷があるにも関わらず途中からブッシュに阻まれて残念である、この谷が下まで滑降出来れば福井の銀杏峯の古葉谷にも引けを取らないであろう。またよく観察してみると流れ尾根の西の尾根筋が1100m付近まで滑れそうである・・・来年の楽しみにとっておこう(^o^)

10:35 大平頭からのブナ林の斜面はグスグスに腐っていてパワーで回すのだが往生してしまった。

10:56 大久保に降りる杉林は雪解けが激しく滑れる状態ではなくここから早々と担ぎの体勢にはいる。途中で石野氏が天然葉ワサビを収穫している。

11:52 私は先を急いで途中で運動靴に履き替えてザック類をデポして、小春日和のさわやかな風を受けながらジョギングで国際スキー場まで車を取りに行く。無事に下山(^o_0^)

PS

二日間ともに好天气に恵まれた氷ノ山に感謝である。乾燥注意報で大山や遠くの真っ白い白山が見えたのは感動もの。二日間でこんなにもこの氷ノ山を滑り尽くしたことに大満足である。